

## 地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護  
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護  
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 19年 9月 1日
事業所名	有限会社 おおぎもと
ユニット名	JO・さざんか 第2
事業所番号	2376200230
記入者名	職名 管理者 氏名 鈴木 あさ子
連絡先電話番号	0565-69-0150

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		<p>「基本理念は「怒」(思いやりの意味)の精神を基本とし、一人ひとりの思いを大切に、日々の生活をリハビリとして捉え、一人ひとりが安全に、明るく、生きがいを持って、安心して暮らして頂く生活の場とし、一人ひとりの喜び、笑顔を紹介者の喜び、笑顔とします。」です。毎朝、職員で唱和し、根付いています。田舎なので、当たり前のように地域の中の繋がりが、大切にしています。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		<p>毎朝、基本理念を唱和しているため、管理者と職員は、基本理念を共有している。また、基本理念を事業所の玄関の目のつきやすい所に掲示してある。日々の介護の中でも、思いやりの怒の精神についてホーム長から話される。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		<p>開設されて3年が経った。地域との繋がりを大切に考えているため、お祭りやお雛様などの行事に参加して、地域交流を深めている。「私たちの理念とは...」と改まって話さないが、介護の様子から、思いやりの精神を感じて頂いている。</p>
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		<p>畑で採れた野菜を頂いたり、余った布などの頂き物もよくある。また、近隣の方に、遊びに寄ってお茶を飲んでもらうこともしばしば。お散歩時に、気軽に挨拶していて、良好な関係である。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		<p>田舎の村の中の一軒になっている。地域の踊りの会の発表会に招待して頂いたり、前述したが、村のお祭りやひな祭りなどに参加している。また、地元の小学校や保育園とも行き来がよくある。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>スタッフ全員が、地域権利擁護事業や成年後見制度の周知はされていないので、必要性が生じた場合に、勉強していきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>絶対にあってはならないことなので、今後も強くお互いに気をつけていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>気軽に何でも聞ける関係づくりにつとめ、ご家族からの不安、疑問は何でもお答えするように勤めている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎日の生活の中で、時に不満に思われることもあるため、その都度の不満解消の対応を苦情記録簿に記載している。それを、職員や運営推進会議などへ伝え、同じことが起こらないようにしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ご家族が面会時にお話することが基本だが、必要に応じてお電話やお手紙などで、利用者様の状態をお伝えしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口についてご家族に説明してある。今のところご家族からの苦情はない。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングや朝の申し送り、その他、いつでも意見や提案を聞く機会を設けている。その都度、職員全体で話し合い、意見を取り入れている。</p>	<p>今後もよりよいサービスが提供出来るように、柔軟に対応していく。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>共同生活を営める範囲であれば、何でも要望はお聞きしていきたいと思う。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は少なく、また、異動はない。離職の場合は、認知症が進んでいる方だと、職員との別れは悲しい感情だけが残ってしまうため、伝えないこともある。職員が来なくなったことを気づかれない。		
<b>5.人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には、徐々に仕事に慣れるように働きかけている。何より、楽しく働いてもらえるようにと思っている。職員同士の雰囲気もとても良い。勉強会は月1回にホーム内で行い、公的な研修もみなさんに行ってもらえるように働きかけている。		今後も、よりよい介護を目指して、勉強していく機会を設けていきたい。
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	利用者様の入退所に伴い、自ずと交流する機会ももっている。しかし、毎日の業務以外での定期的な時間は設けていない。		今後、必要に応じて、同業者とのネットワークづくりが出来ていけたらと思う。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	楽しく働くことが、よい介護へと繋がるため、管理者や職員が運営者に話しやすい関係にある。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	利用者様の笑顔や元気に暮らされていることが、職員の働く糧でもあるため、こういった工夫で改善されるかということに重点をおいている。そういった方向が各自の向上心へと結びついているのではないかと思う。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>時間の取れる限り、利用者様の困っていること、不安なこと、求めていることを聞くようにしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>時間の取れる限り、利用者様の困っていること、不安なこと、求めていることを聞くようにしている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>必要に応じて、他のサービス説明もしている。また、他の相談窓口への繋ぎ役も行い、相談者が困らないようにしている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>住む場所が変わることは、とても大変なことである。尚且つ認知症があるため、戸惑いや混乱があるのは、当たり前のため、その辺りをご家族に協力頂き、職員も細かな気配りをして、丁寧に対応している。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員も利用者様から教わることが多いとよく話している。利用者様と職員が、一緒に過ごし、喜怒哀楽を共に寄り添っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員も利用者様から教わることが多いとよく話をしていく。利用者様と職員が、一緒に過ごし、喜怒哀楽を共に寄り添っている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人様の状態を知って頂くことが、大切である。ご家族の時間の許す限り、ゆっくりとお話できる環境づくりに努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	独居暮らしの方が、空けてきた家屋敷を心配された場合、一緒に出向き家で過ごす時間を作っている。また、馴染みの方のお見舞いに付き添うこともある。ホームへは、いつでも来て頂けるようにしてある。		
31 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士で、お声を掛け合い、支えあわれている。家族には代わることは出来ないが、共同生活者として身近な存在で、円満な生活が送られるように、その架け橋になるようにと職員は努めている。		
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されると何度かお見舞いに伺う。また近く施設に転居された場合は、会いに行くなど、利用者様やご家族との縁を大切にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>暮らしの中で、大事にしてみえたものを、本人様やご家族からお聞きし、ホームでの生活でも、引き続き大事にできるように配慮している。例えば、宗教や趣味など。本人様の意思表示が困難な時は、ご家族に相談しながら、楽しく暮らせる時間づくりに努めている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>暮らしの中で、大事にしてみえたものを、本人様やご家族からお聞きし、ホームでの生活でも、引き続き大事にできるように配慮している。例えば、宗教や趣味など。本人様の意思表示が困難な時は、ご家族に相談しながら、楽しく暮らせる時間づくりに努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎日の細かな様子の変化を見逃さないように、引継ぎを大事にしている。ホームの運営者が一括管理しているため、細切れではなく総合的に、一人ひとりの状態を把握できている。</p>	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>話し合いの場を特別に設けている訳ではないが、課題があった場合には、即座に対応し、本人様、ご家族や職員で、課題解決の方法を考えて、介護計画を作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画を立てた時は、必ず評価をしている。課題解決できない場合には、本人様、ご家族や職員と話し、新たな計画を立てて、また評価している。</p>	



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	大切なご家族をお預かりしていることを、常に念頭に置いている。定期受診だけでなく、細かな身体状況の変化を把握し、必要時には、小まめにかかりつけ医の受診援助を行っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医の受診も必要に応じて、行っているため、ご利用者様が必要な医療を必要なときに、受けられている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	運営者が看護のスペシャリストであるため、個別の健康状態の把握が、継続して行われている。医師との連携も密に取れている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された時は、その状況の変化を把握し、ご家族はじめ、病院関係者と情報交換や相談をよくしている。入院中や退院後も困られないようにと対応に努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に重度化や終末期に向けた方針について、本人やご家族に書面を用いて、説明している。しかし、現実のところ、あまり早い段階だと、考えられない様子で、その方の状況に応じて、方針を立てている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームでの出来る限りのことを、提供できるように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしている</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの隣に、野菜園を作り、入所者とともに（畑仕事が可能な方）作っている。新鮮な野菜の収穫を皆さんで喜び、野菜の皮むきや、野菜切りなどやって頂いている。食事は、一人ひとりの好みや咀嚼、嚥下力に合わせて用意し「美味しいなぁ」と喜ばれている。風土料理や季節感を大切に考えている。準備や片付けも一緒に行っている。		
55 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコを吸われる方はいないが、アルコールについては、希望されたときに、お体の状況に応じて提供している。飲み物も「毎日、牛乳が飲みたい、養命酒が飲みたい」など、ご希望に沿って提供している。		
56 気持よい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の状態把握し、おむつは極力使わないようにしている。おむつの使い方も、その方のその時期の状態に合わせて使えるようにと、職員と考えている。		
57 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、その方の希望に合わせている。毎日が良い方には、毎日、提供しているが、お風呂嫌いな方には、強く拒否されないような方法を職員と模索し、入浴剤や柑橘類の皮を干して入れたり楽しんで頂けるようにと工夫している。また、汗をかかれた時や体の汚れがあるときは、まめにシャワー浴して頂く。しかし、基本的な時間帯については、個別の対応が出来ておらず、午後に行っている。		今後、時間については、個別の対応が望まれる。職員の勤務時間をどのようにしていくかが、課題。
58 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	室温を適切に保てるように配慮し、安心して睡眠をとって頂く様にしている。眠れないときは、話しを聞いたり、温かな飲み物を提供する等している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	田舎の方が多いため、今まで農作業や畑仕事などを一生懸命に行ってきた方が多いため、その方には、無理のない範囲で野菜づくりや草取りなどして頂いている。また、皆さんの馴染みのある素材の豆を使っての手仕事や雑巾縫い、カルタや双六なども今までの暮らしで見た生活歴に沿ったものを作成し喜んで頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の状態によってだが、ご家族と相談しながら、お金を所持して頂いている。買い物や外出時など、好きなものを買っていただくように支援している。お金を持っていることが、張り合いになっている方もみえる。		
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	喫茶店や買い物、自宅の様子を見に行く、季節の花や景色を見に出かけるなど、小まめに戸外に出かけている。		小まめに出かけてはいるが、もっともっと個別に出掛けられたらと思っている。
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	喫茶店や買い物、自宅の様子を見に行く、季節の花や景色を見に出かけるなど、小まめに戸外に出かけている。また、ご家族に協力頂きながら、出掛ける支援づくりをしている。		
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人が電話したり、手紙が書けるように、希望に沿い、介助しながら行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来られたら、過ごしやすい場所で（自室、談話室、面会室）ゆっくり過ごして頂けるように、職員一同配慮している。飲み物やお茶菓子を提供して、快い対応に心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	極力、身体拘束しないようなケアに努めている。拘束が必要な場合は、ご本人の理解が難しいため、ご家族に事情説明し、拘束期間を定めて同意書を頂くようにしている。拘束も本人の苦痛を最小限に考えている。状態変化により、必要がなくなり次第、やめる姿勢を忘れないようにしてる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	無断で外出される方がおられるので、現在は施錠している。その方が楽しみに出来ることを見つけたり、職員が付き添える限りは、日中に何度か外出の機会を設けている。職員のアンケート結果の多くにも、鍵をかけないケアがしたいとあった。		鍵のかけないケアをしたい、かけないケアが出来ないかを、いつも模索していきたい。
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	お部屋に入るときは、お声をかけて入室する、自室の時間を大切にするなど、プライバシーには配慮している。一番は安全な生活の提供なので、状態の把握をしっかりとしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	何でも片付けてしまう方法ではなく、個人の状態に合わせ、安全安楽に暮らせるようにしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々の状態の中で、特に気をつける事項を毎日のミーティングなどで、確認している。その日ケアにあたる職員の意識統一している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変や事故発生に備えて、定期的に勉強会を設けている。また、急変などあった場合は、その後に同じ事柄についての応急手当、初期対応について、職員で話し合う機会を設けている。		今後も、その都度テーマを決めて、落ち着いて対応できるように勉強を深めて行きたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1～2回の消防署に協力を頂いての防災訓練を実施している。また、毎月19日に職員で防災時の対応の確認をしている。来月(H19/9)より、利用者様の避難訓練を19日の日に毎月、行っていくように計画している。非常連絡網を整備している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族の面会時に、現状の様子をお話しし、起こりうるリスクについて知って頂いている。リスクを予防しつつ、楽しみを感じて頂ける生活となるように職員も工夫している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変に気づけるように、日ごろから注意深い観察を行っている。気づきがあれば、毎日のミーティングやその都度、情報共有し、即座に対応できるように用意している。		
74	服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状を職員が見れるように置いてあり、何の薬かを把握している。また、用法や用量については、間違えがないように、事前に飲む時間と量のセットをしておくようになっている。また、特に注意が必要な薬については、飲み忘れなどの間違えがないようにどうしたらいいかと策を考えて対応している。		
75	便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便状態を確認し、入浴時や排泄時などに、腹部を観察している。便秘が継続している場合は、食物繊維、水分を多めに摂り、腹部マッサージ、体操など心がけている。		
76	口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	夕食後、個別に口腔ケアを行っている。入れ歯の手入れや残歯、歯肉を歯磨きしている。職員が横に付き添い、まずは自分でやって頂き、必要に応じ、職員がもう一度、歯磨きの援助をしている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、食事メニューを決めている。朝、昼、晩、午前と午後のおやつの際に、水分をしっかりと摂って頂き、自己管理できる方には、お茶のボトルを用意している。また、入浴後やそれ以外にも、お茶などの飲み物を摂って頂く様に働きかけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	台所用品の消毒、手指のアルコール消毒を行っている。食品に関しても、食中毒予防に努めている。寝具については、極力、風を通し、日光にあて、乾燥させることに気をつけている。嘔吐物は塩素消毒している。		
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用品の消毒、手指のアルコール消毒を行っている。食品に関しても、食中毒予防に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周りには、花や植物を植えている。玄関も置き物を飾ったりして、家庭的な雰囲気を出している。来訪者が来られたときは、明るく挨拶をすることに努め、安心して出入りできるようになっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔にしつつ、季節感を感じて頂けるように、折り紙や花などを飾っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファを用意し、好きなように過ごして頂いている。思い思いのことを出来るように、道具が用意してある。(本読み、豆拾い、家事など)		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居室入り口には、それぞれにのれんを手作りし て、戸を開けっ放しでも、プライベートが守れる ように配慮してある。また、個人の馴染みの家 具、育てて見える植物の鉢、家族との写真、仏壇 など置いてある。		
84	換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	居室の窓を開け、換気に気をつけている。冷房や 暖房についても、職員が見回り、適温で過ごせる ように配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっており、手すりも所々 についている。また、ベッドの高さや椅子の個人 に合わせて工夫し、電気の紐を長くするなどして いる。		
86	わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	お風呂、トイレに場所がわかる看板を置いたり、 自分のお部屋や押し車が分からない方には、名前 を大きく書いて分かりやすいようにしてある。		
87	建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	季節の植物や花などが植えて、楽しむよになっ ている。山茶花、桜、桃、木蓮、水仙、チュー リップなど。散歩は、自然豊かなので、とても楽 しい散歩道である。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと )
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

田舎の山里で、恵まれた自然環境にあり、四季折々の花が咲き、鶯や虫の音が響いています。職員一同、温かい介護に常に心がけています。